

令和 8 年 3 月 30 日
定期航空協会
一般社団法人全国空港給油事業協会

ANA・JAL、航空機給油作業における訓練の相互承認を開始
～訓練期間の短縮により、運航を支える人材確保を後押し～

定期航空協会と全国空港給油事業協会は、航空機給油作業員の資格取得に要する訓練期間の短縮を図るため、全日本空輸株式会社(ANA)と日本航空株式会社(JAL)が、同一機材における給油パネル操作訓練の相互承認を令和 8 年 4 月 1 日より開始することを発表いたします。

記

1. 背景と目的

現在、航空業界では、持続的な運航を支える給油作業員の不足が喫緊の課題となっています。給油作業員は、適正な作業と安全確保のため様々な資格と高度な訓練が義務付けられており、一人前になるまでに相当な訓練期間を要します。

この訓練課程において、各航空会社が独自に義務付けている給油パネル操作訓練について、内容が重複する部分を効率化する等、訓練期間の短縮を図る必要性が高まっていました。

2. 協調施策の概要と効果

(1) パネル操作訓練の相互承認

この課題に対し、ANA と JAL の両社は、同一機材(例:ボーイング 787 型機など)における給油パネル操作訓練について、両社間で相互承認する仕組みを構築しました。

- **訓練の効率化:** これまで各社で個別に実施していた訓練を同等であると評価し、相互承認を可能とすることで、作業員一人あたりの訓練負荷を軽減します。
- **訓練期間の短縮:** この相互承認により、給油作業員の訓練期間を一定程度短縮できることが想定され、特に新規採用者の早期現場投入が可能となります。(ANA と JAL が同一機材を運航している空港では訓練の重複が解消されることにより、両社の実機におけるパネル操作訓練について、最大延べ 120 回が5割程度削減可能*となります)

*1日1便のみ就航の空港(通常1日1回の訓練)では、最大 120 日(回) × 50% = 60 日(回)程度、1日に複数便就航のある空港(通常1日に複数回の訓練)では、最大 120 回 × 50% × 1 時間(1回の訓練時間) = 60 時間(回)程度

これは、安全運航を堅持しつつ、運航を支える人材の確保に向けた極めて重要な取り組みです。

3. 今後の展開

両協会は、今回の ANA・JAL による取り組みをモデルケースとして、給油作業員不足の解消に向け、航空業界全体の訓練効率化と人材確保に貢献するよう、相互承認の対象となる航空会社や機材の拡大について、関係各所と連携しながら検討を進めてまいります。

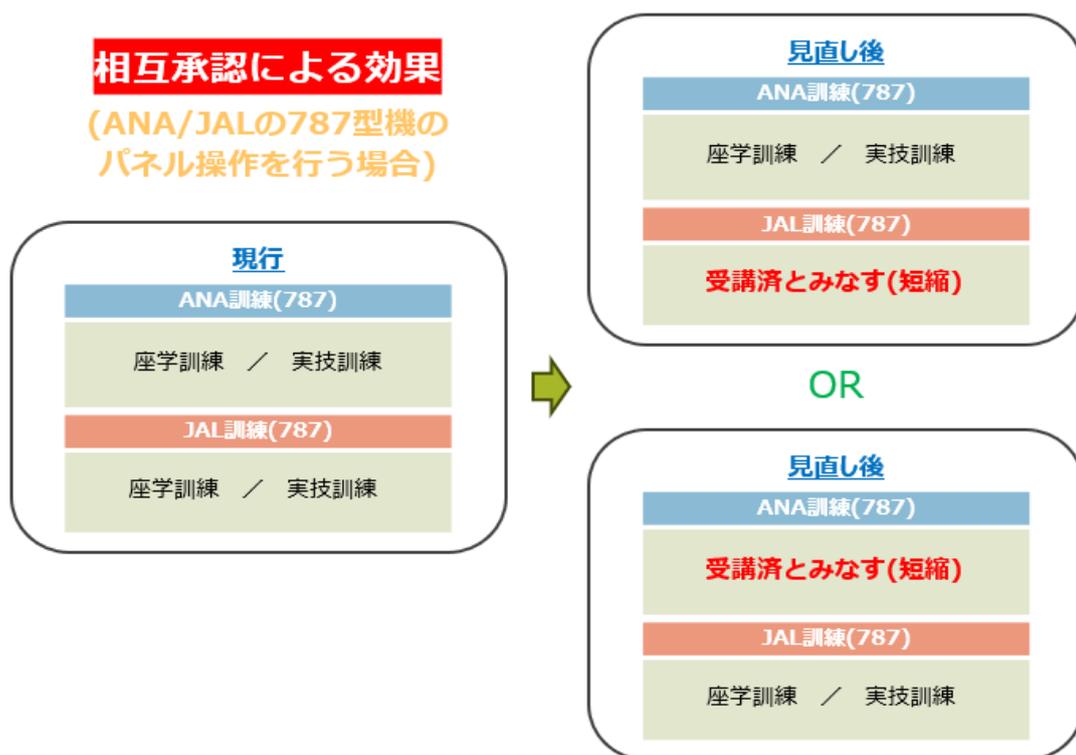
＜給油パネルとは＞

主翼下部などに設置された、飛行機への燃料補給を制御・管理する操作パネルです。コックピットに入らなくても燃料の搭載量を確認したり、給油作業を制御したりできるようになっています。



(提供：全国空港給油事業協会)

＜同一機材における給油パネル操作訓練の相互承認イメージ図＞



＜本件に関するお問い合わせ先＞

定期航空協会 事務局 (担当:吉田・乾) 連絡先: 03-5445-7136

一般社団法人全国空港給油事業協会 (担当:谷) 連絡先: 03-5708-7281